ハンフリー視野10-2と光干渉断層計から算出する網膜神経節細胞数

○田邉　義政1）、小川　俊平２，３）、野呂　隆彦２，４）、伊藤　義徳２）、奥出　祥代２）、郡司　久人１）、中野　匡２）

１）慈恵医大・柏

２）慈恵医大

３）厚木市立病院

４）スタンフォード大学

【目的】網膜神経節細胞(RGC)の50%が黄斑部に集中しており、黄斑の機能と構造の関係を分析することは緑内障の早期発見、経過観察には重要である。そこで今回我々は、HarwerthらのRGC数算出方法を応用し、ハンフリー視野10-2(HFA10-2)と光干渉断層計(OCT)からRGC数を算出し、検討したので報告する。

【対象と方法】2009年9月から2015年7月に慈恵医大眼科においてHFA10-2とOCTを同一日に測定した99例、336データ・セットを対象とした。眼数でみた内訳は、男性206眼、女性130眼、平均年齢56.5±9.1歳、病型はNTG-194眼、POAG-128眼、PPG-14眼、平均MD値は-9.23±9.5であった。サブ解析としてHFA10-2、HFA30-2を7ヶ月以内に行っていた67眼について、これらの関連を調べた。

【結果】OCTから算出されるRGC数（RGC\_OCT）は 平均5.33±3.0e+05、HFA10-2から算出されるRGC数（RGC\_HFA10-2）は平均4.61±2.7e+05、RGC\_OCTとRGC\_HFA\_10-2の間に強い相関を認めた（R=0.909）。サブ解析ではRGC\_HFA30-2とRGC\_HFA10-2はよく相関していたが（R=0.918）、MD30-2、MD10-2とRGC\_HFA10-2の相関係数はそれぞれ0.787、0.879であった。

【結論】HFA10-2はRGC推定の精度を向上させうる。